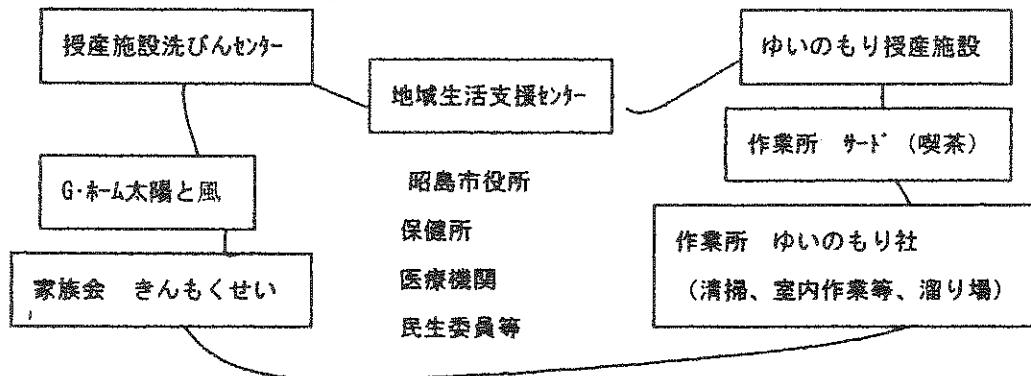


## ◇◇ (平成 15 年開設) パン屋とレストランを業務とする授産施設で社会福祉法人格取得を目指します◇◇

この 10 月にリサイクル洗びんセンターに地域生活支援センターが開設された。これにより昭島における精神障害者への地域支援は、より柔軟にそしてより幅広く活動できるようになった。

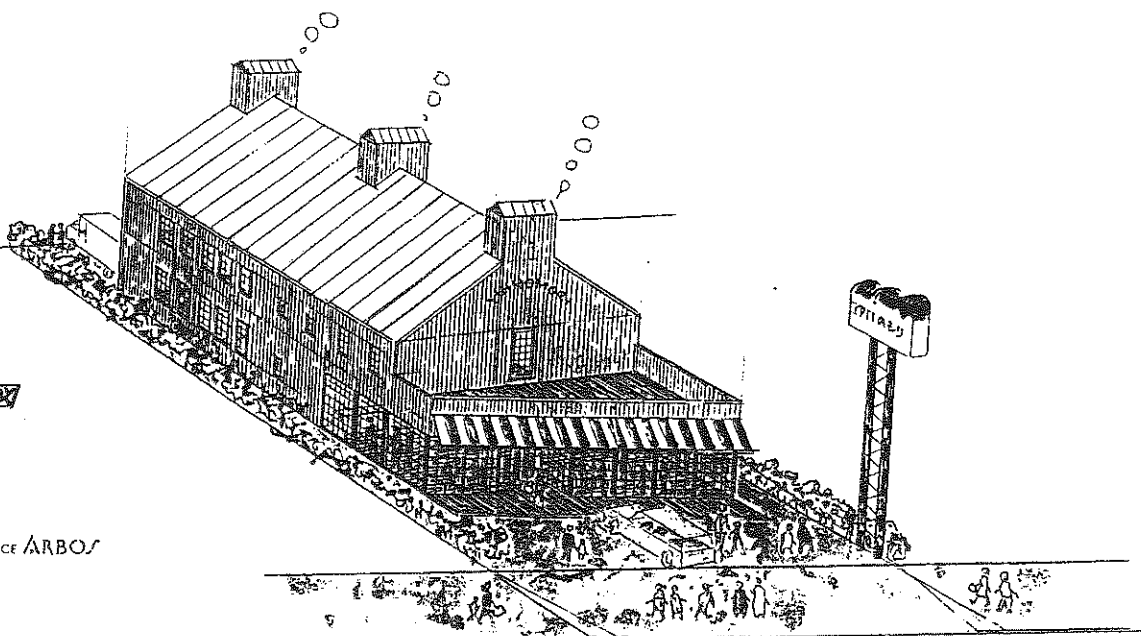
さらに、私達は、現在運営している 3 作業所を「1つの法人授産施設・2つの作業所」に変えていこうと思う。法人施設で社会的信用度を高め、作業所によって小回りの効く活動を確保したい。

### 昭島の支援組織 - 平成 15 年予想図



外観予想図

ARCHITECT OFFICE ARBOS



## ☆☆ ゆいのもりの歴史 ☆☆

第1作業所のゆいのもり社が開所してからすでに12年が過ぎた。法人化の目標を掲げたところで、その歴史を振り返ってみる。

### [作業所開所の流れ]

**ゆいのもり社** 市内最初の作業所。昼間行く場としてスタート。

**食工房ゆいのもり** 触れ合うことが理解を広げると分かり、市民との触れ合いのきっかけとして食文化に着目し、パンの製造販売を作業とした。

**ザ・サードゆいのもり** 市民と直接触れ合う場で、ちょっとカッコイイ喫茶店。しかも、市役所という公的な場で実現することによって、市民及び行政の信頼を強くすると考えた。

### [略年表]

1987	・作業所準備会設立
1989	・ゆいのもり社開所（室内作業、食事作り、レクリエーション）
〃	・会社清掃開始
1993	・ゆいのもり社 事業拡大（昭島駅花壇管理、清掃 - 94年朝日町高齢者福祉センター、社協ふれあいコーナー、95年河内クリニック）
	・食工房ゆいのもり開所（国産小麦によるパンの製造販売）
1994	・公民館講座「地域で精神障害者が暮らすために」講師派遣
1995	・食工房 施設用給食にパン納品開始
	・多摩地区バレーボール大会で優勝（以後3年連続）
	・賛助会スタート
	・食工房 共同購入グループへパン納品開始
1996	・運営委員とメンバーの懇談会開催
〃	・市内の関係機関と運営委員会を作り、グループホーム太陽と風を開設
	・第1回海外旅行（グアム島）
1997	・ザ・サードゆいのもりを開所 昭島市役所1階にて喫茶コーナーを開始 10月 日替わりランチ開始
1998	・食工房 天然酵母パンのオーブン製法開始
	・家族会による連続市民講座に協力
	・ザ・サードメンバー - 都作業所連絡会弁論大会で優秀第二席と秀作賞を受賞
1999	・3作業所 看護実習生の受け入れ開始
	・運営委員会 法人授産施設設立を目指すことを決定



## はじめまして、森です。

森 啓暢

はじめまして、この春三鷹市にあるルーテル学院大学を卒業して4月より「ザ・サードゆいのもり」に勤務しています森啓暢（ひろのぶ）と申します。よろしくお願い致します。

私の名前は「森」ですが、喫茶の名前も「森」、作業所の名前も「ゆいのもり」と言う様に同じ「森」です。これは何かの縁ではないかと思っています。

さて、私は横浜に生まれ大学入学まで横浜で過ごしました。大学入学と同時に寮に入ったので三鷹市に居住すること4年、今度は就職で昭島市とどんどん奥地へ生活の場が移っています。半年が過ぎて、昭島での生活にもだいぶ慣れました。

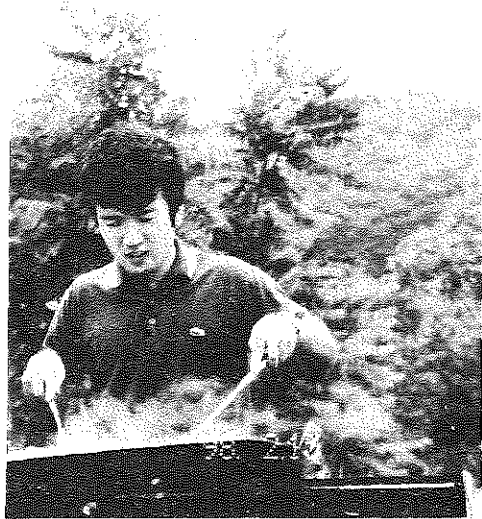
仕事はというと一言で言うならば、「あつという間の半年」でした。1つ目は職員ひとりあたりの仕事量は予想以上に多く、内容を覚えていくのに苦勞をしました。また、2つ目は喫茶店営業を行うので料理を行わなければならない、経験の未熟な私にとって辛い日々もありました。料理に関して現在かというと、ゴールに達したわけではなく、今も学習の日々が続いています。

半年で、初夏旅行・ボーリング大会・カラオケ・バレーボール大会等の行事を経験することができました。これらの行事では、自分自身も楽しませてもらっています。「毎日、行事だったらよいの…」と思ったこともありました。冗談ですが…

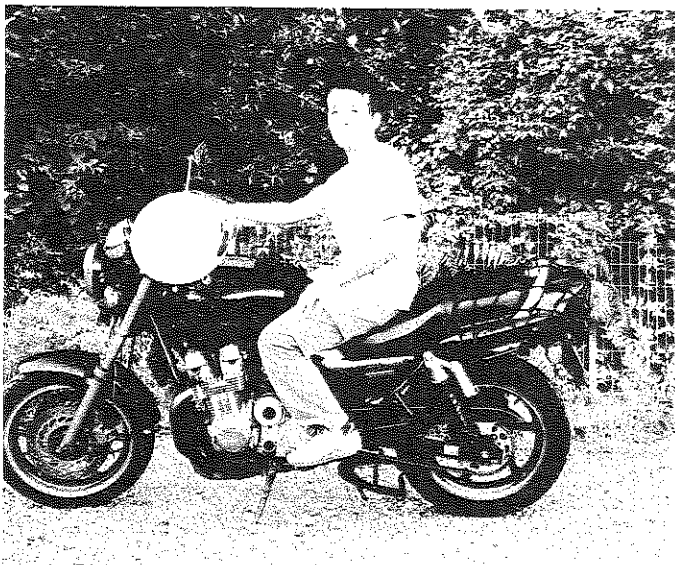
あつという間の半年、先は長いですが1日1日を大切にこれからも「ザ・サードゆいのもり」で働いていきたいと思えます。今後とも宜しくお願い致します。

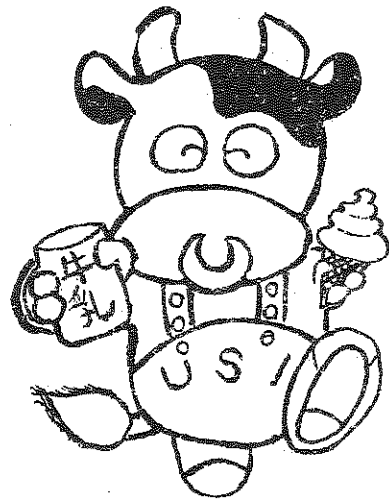
(写真は、自分の愛車です。大学3年の時に購入して、現在も乗っています。)

右・バーベキュー大会で  
焼きたちは僕も担当しました。



左・愛車のCBR250です。  
今年の夏は新潟・石屋  
まで走りました。





## あの頃の私と今の私

赤羽 隆志

発病は19才でした。(あの頃とはこれを指します。)いわゆる今よくマスコミでとりあげられる、ひきこもりのはしりだったと思われます。  
具体的、自分のことなのに何であんな事で悩んでいたのか。  
今思うと失笑のそしりを免れないでしょう。  
それを乗り越えたのは、相性の合う、ドクターと、ある程度年齢が解決したと思われる。  
発病の原因である昼夜逆転。そして入退院の繰り返し、悪循環でした。  
その様な私もスタッフの皆様のお陰でいつしか軽快な状態になり、いわゆる「心のゆとり」を勝ちとりました。その間に大学に合格しました。  
さてゆいのもり社の特徴として「形式ばらない」これはスゴイと思われます。  
病は克服したものの、食べ盛りの時にメンタルホスピタルしたお陰で病院食では物足りずスモウ・レスラー並の体格になってしまい、カッコ悪いです。  
最後に我々の服用している向精神薬、これは眠たくなるクスリです。(副作用の一つ)  
とりわけ、就寝薬は朝に弱くなります。  
私も長年、朝ネボウに悩まされました。ドクターに眠いと訴え続け、徐々に弱いクスリにと変わりました。しかしクスリが変化すると、それに慣れるのに大変で、状態が悪化する恐れがあります。  
自分は学生時代に、遅刻は皆無でした。要するに、障害になると情けなくなるのです。

## 部屋を出て、ゆいのもり社に通おう

哲生

僕が、ゆいのもり社を訪ずれたのは、彼是二年前の事だ。種々のジャンルの作業があり、自分に合った作業を選択することができる。因に僕の最初の作業は、袋づくり、だった。鳥渡した小遣い稼ぎになる。最初は、不安だったが、誰にでも判る様に作業の内容を敷衍して職員が教えてくれる。其でも判らなければ、廻りの人々が教えてくれる。僕は、天命を識る齡に近いので、呑み込みが鈍くなっているので職員に支えられ、廻りの人々に支えられ、なんとか頑張っている。

勿論、作業の最中は、厳しい。其で落人になっていては、人生を楽しめない。家に籠もりがちで仕事嫌いだった僕を救ってくれたのが、ゆいのもり社だ。今日では、数多の作業に積極的に参加するようになった。以前、ある詩人が「書を捨て、街に出よう」と、謂ったが、僕に謂わせれば「部屋を出て、ゆいのもり社に通おう」だ。屹度、仕事の楽しさを、ゆいのもり社の人々が教えてくれる。

独りで悩んでいないで積極的に人生に参加しよう。其のステップとして、ゆいのもり社で作業をしよう。屹度、人生が昨日より楽しくなる。

授産所で無理せず徐に作業をしようと思っている人は、一度、ゆいのもり社に足を運んでみよう。皆、温和に迎えてくれる筈だ。

9月20日水曜日はれのちくもりぞら。ほんとうにあしたの、りょこうが、いけるだろうか？と、じぶでわ、みんなとおなじきもちで思った。そしてあしたぐるのをたのしみに、おもっていた。そして9月21日木曜日、元気よくみんなにあい、りょこうの準備に、みんなと、ごうりゅうし、準備に、おわれた。しかしきょうのりょこうわ、ばんぜんに、じこのないようにみんなといのるきもちであった。みんなのえがをがじぶんを、あんしんえ、みちびいてくれた。うれしかった、ぼくはとても、みんなといるときがうれしい。

日帰りりょこうであっても、将来、いいかせない、思いでになると思っている。みんながいるから、仲間お、たいせつに、したい。だから、ぼくの心の中に、仲間がいるんと思う。そして、このりょこうで思い出に残ったのは、みんなの、かをが、さわやかに、かんじる、そのえがおと、なかまのかんけいお、このひろばにて、だいじにしていきたい、将来かせなな思い出に、したい。

※ 9月21日「ワインと花の丘めぐり」と称して、山梨へ日帰り旅行に行きました。ゆいのもり社・サードゆいのもり合同で総勢23名参加。山梨県フラワーセンター、サントリーワイナリーなどをめぐり、楽しい秋の一日を過ごしました。



頼れるのは神様だけ

河童男

僕は作業所に通いはじめてから7年以上になりますが、この間作業所の職員や病院の先生に訴え続けてきた事があります。それは僕は右肩と右足を痛めているという事です。それはどういう事かと言うと、そもそも僕は左利きなのですが、両親に幼い頃に右利きに矯正されスポーツをするのも箸を持ったり鉛筆を使用したりする時も右手、右足を使う習慣がついてしまい関節を痛めてしまったという事です。

主治医も職員も僕のその訴えを真剣に聞いてくれません。

5年以上前、友人と国立の障害者センターに行って僕は身体障害者ではないのですかとその医師にみてもらったのですが先生は「精神科に行きなさい。」とおっしゃるだけで僕は診察室から追い出されてしまいました。整形外科でレントゲンをとってもらっても骨に異常がないのでマッサージでもしましょうと言われるだけで、実際半年とかその病院に通っても全然治療効果がありませんでした。僕としては身体障害者として認定してもらい障害年金をいただきたいのですが誰も理解してくれないのです。

現在、32才、精神科への初診を受けたのが24才です。国民年金をちゃんと収めていなかったため精神障害者としての障害年金ももらえず今は生活保護で一人寂しく暮らしています。精神病も治る見込もなく肩や足の痛みもとれず、それを認めてもらう事も出来ず就労も無理で悲惨な闘病生活を送っているだけです。僕に出来るのは神様にせめて精神病だけでも良くなるようにお祈りする事だけです。

「食工房ゆいのもり」のメンバーに  
インタビューしてみました。

単身生活を楽しんでいるMさん。男 33歳。

Q Mさんの住んでいる所はどんなところですか？

A 賃貸アパート1階、8畳一間、バストイレ付き、台所は2畳くらい、築20年、  
家賃43000円、共役費2000円、畳じゃなくてじゅうたんがひいてあるんです。

Q 生活費はどんな風にやりくりしていますか？

A 収入は生活保護だけです。食費を節約しています。レトルト食品を活用しています。

Q 今の生活のいい所、楽しい所はどんなところですか？

A 気楽な所、友達がいっぱい集まってくる所。

Q 今の生活で困っている所、嫌なことはありませんか？

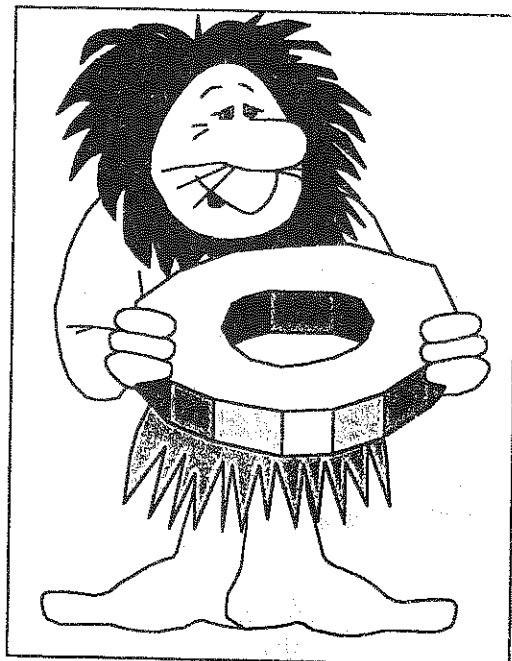
A これといってない。生活保護って結構快適ですよ。

Q 作業所を利用してから生活にどんな変化がありましたか？

A 規則正しい生活ができるようになった。友達がたくさんできた。  
工賃をもらえるので生活のたしになった。

Q 将来できたらこんな風に生きてみたいという夢はありますか？

A 宝くじ3億円当てて、優雅に暮らしてみたい。



コメント：Mさんは生活保護の収入で上手にやりくりして生活しているようです。

食工房に来てたくさん友達ができました。楽しい仲間ができてアパートによく遊びに来るそうです。そして作業所に通所して規則正しい生活リズムを取り戻しつつあります。これからも続けて通ってきてほしいですね。

多摩総合精神保健福祉センターのショートステイ利用予定のTさん(女性)

Q Tさんは、以前にもショートステイを利用したことがありますけど、多摩総のショートステイってどんな所でした？

A いいですよ。他の部屋の人や、入院している患者さんと友達になれました。いっしょに買い物や散歩に行ったりして。ごはんもおいしいし。あつあつの味噌汁がです。

Q ご飯はどこで食べるんですか？

A 食堂があるので朝昼晩3食そこで食べます。

Q 以前ショートステイを利用した時、家庭のことでかなり疲れてしまっていて、幻聴がひどかったと聞いていますが、ショートステイ中は 楽になりましたか？

A ステイ中も幻聴は聞こえていたんですけど、少し軽かったです。ショートステイで友達ができたのが良かったです。

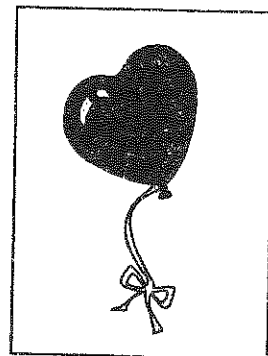
Q 今回利用しようと思ったきっかけは何ですか？

A 夏に家庭のことが一段落して幻聴が少なくなったのですが、最近またひどくなってきました。疲れている時出てくるんです。一人で居る時出てくる人が多いです。仕事を夢中でやっている時は聞こえてこないんだけど、休んでいると聞こえてくる。家に帰ると寝るまで幻聴にいじめられるんです。幻聴が聞こえるるととても疲れます。幻聴は団地に居るんです。それで団地を出れば幻聴が聞こえなくなると思いました。

Q 最初グループホームに入ろうかと思ったそうですね？

A 保健婦さんに相談したら、「今の団地は出たらなかなか入れないからもったいない。グループホームは2~3年経ったら出なきゃいけないから、出てから行く所を探すのは大変です。それにTさんは今病状が良くないし引越すのは大変です。」とアドバイスしてくれました。そしてショートステイに空きがあるか調べてくれました。たまたま運良く空きがあったので利用することを勧められました。

Q 申し込みは自分でしたのですか？

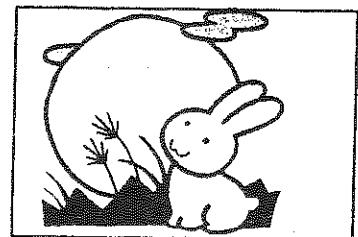
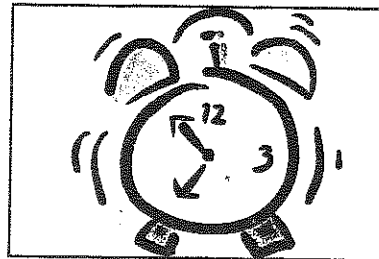


- A 以前は保健婦さんの方で連絡したのですが、今回は2度目ですので、自分で電話しました。「ショートステイ利用したいんですが、空いてますか？」って。空いてるのは保健婦さんが調べておいてくれたので知ってたんですけどね。笑
- Q これからショートステイを始めるにあたって心配なこととかありますか？
- A 前回は行く時付き添ってもらったけれど、今回は一人なので不安。腰痛がいたむので荷物を持って電車で行くのはきつい。誰かいっしょに行ってくれないかなあと思っています。

コメント：彼女のようにちょっと具合が悪くなった時、ショートステイを利用する事でうまく行くことが多いんじゃないかと思いました。病気に負けず、これからも強く生きていってほしいです。

### 就労(パート勤務)に成功したAさん(女性)

- Q 今日は仕事が終わってから、わざわざインタビューのために「食工房」にきていただきありがとうございます。Aさんは、職業訓練校に入って2ヶ月間パソコンの勉強をして、それから就労できたと聞いています。職業訓練校は誰かの紹介だったのですか。
- A 仕事を探していて、保健婦さんと一緒に職安に通っていたんです。職安の人に「事務の仕事希望している」と伝えると、「ワードとエクセルができないと全然ないよ」といわれた。職安に職業訓練校のチラシがあって、それを見て申し込んでみた。抽選で10人に一人くらいしか当たらない。でも運良く当たったんです。
- Q 職業訓練校はどうでしたか？
- A つらかったっすね。八王子にあるんですけど、すごい急な坂があつて通うのが大変だった。土日抜かして毎日だったよ。短期間(2ヶ月間)でよかった。半年とかだったらだめだったかも。コンピュータ以外にも自動販売機の整備とか、医療事務とか、自動車整備科とか、1年のコースとかもあるんですよ。あ、2年のもある。
- Q 今の仕事は職業訓練校で紹介してもらったんですか？
- A 自分で新聞のチラシを見て応募しました。家から近かったし、パソコンの入力の仕事だったから。特に保健婦さんとかに相談はしなかったです。
- Q 試験はなかったんですか？
- A 履歴書書いて申し込んだら、その日の午後、「来てください。」って言われて、面接しました。でもあんまり面接っぽくなくて。「ああワープロできるんだあ。明日からこれ？」って感じてすぐ決まったんです。
- Q 最初どんな仕事をしたんですか？エクセルとか使ってやったの？
- A エクセルはぜんぜんやってなくて、名前の入力とかやってました。
- Q ひょっとしてブラインドタッチとかできるの？
- A それは習ったもん！まかせてよ。ワープロ3級も取ったんだよ。
- Q 通勤はつらくないですか？
- A 「食工房」に居る時と変わらないですよ。9時から3時までが勤務時間。八時におきて、9時10分前に家を出る。そうすると9時につく。チャリだと5分ちよいでつくよ。歩いてもいいけるし。最近早く寝ちゃうのね。8時9時くらいに。そうするとおきれますよ。
- Q ストレスはないんですか？
- A ありますよ。きびしい口調で「あれやって、これやって、仕事が遅い！」なんて言われるし。やめたいなあと思ったりもした。仕事で疲れて家でぐちばっか言っちゃって、お母さん疲れちゃって。
- Q 疲れて具合が悪くなることはありませんか？
- A 大丈夫です。病気のことは内緒にしているんです。通院の日も土曜日にしてもらっているし。だから健常者だと思われているんです。だから休みもとりにくいんです。



コメント：がんばってますね。今の社会は本当にストレスが多い。どこにいっても上下関係が存在するし、ほんとうに実力がある人以外はみんな苦しんでいます。Aさんはそんな痛みがわかる、わかってあげられる人になってゆくでしょう。

開所4年目を迎えたザ・サードゆいのもり。昭島市役所内の喫茶森の仕事も順調です。その合い間に、作業所ではバレーボール大会、一泊旅行などでリフレッシュ。芸術活動に親しむメンバーもいます。そんな日ごろの活動を、3人のメンバーに綴っていただきました。

## 病気と芸術

原田 浩一郎

僕が病気になって丸十年がたちました。その間、退院から三ヶ月がたち、社会の大きな壁に当って、今まで遣りこなせていた仕事は、前の様に出来なくなっていました。そんな時に二枚のCDに出合っていました。ベートーヴェンの運命とパッサのパイプオルガンのCD。この二枚のCDは、僕が芸術家としての、又病気の回復としての、ととても役に立ちました。仕事は何回も変わりました。イスのコトブキという株式会社には丸三年勤務して、その他東洋ポデーという会社に三ヶ月勤めたり、鈴木印刷に半年お世話になったりしましたが、何処も病気と薬による副作用で長い八時間労働は無理でした。その時、二枚の音楽に出合って、僕も作曲をしながら芸術家を目指す事を想いついたのです。十八曲の作曲をして、一〇九三枚の写真を撮って、風景画を含めた油絵三十五枚、水彩画二十九点を書いたのです。一人の病気の人間の成すことは余りにも小さな出来事ですが、今ではこの病気になった自分が、芸術が楽しい、作業所の仕事が楽しい、そんな自分が見えて来ているのです。そして僕みたいな病気の芸術家はこの日本の、いやこの世界にはいっぱいいます。これからも僕は、病気の芸術家としてこのこの日本や世界を力強く生命で行きます。総ての生命ある生命に、幸福と平和と愛を祈ります。



## バレーボール大会が終わって 佐々木 雄平

先日のバレーボール大会は、本当に惜しかった。今大会に合わせて練習してきたが、ベストメンバーを組んだら職員が入らなくても、かなりいい成績を残せたのではと思っていました。試合当日来れなかった人もいて、キャプテンとして多少のコンビネーションプレーも出来たのではないかと仮想していた。結果はともあれ実際に試合に出れた選手の個人の能力は、他チームと比較してもそれほどの差はなかったと思います。サーブを確実に入れて、いっぺんでなくてもいいから必ず三回で返すという形を、練習しておけば良かったと思いました。来年も出れたら、一勝でも多く勝ちたいです。みなさんお疲れ様でした。そしてまた来年も頑張りましょう。

10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月
立川防災館見学(おいしいもの食べようツアー) あきる野学園3年生 Nさん実習 となりのレトロ(青梅市 ひこばえの家)見学 みんなのバザー参加	多摩地区共同作業所交流バレーボール大会 予選リーグ3位 Sさんきりぎりすに輝く 多摩立川保健所家族教室のみなさんが喫茶見学 ぶどう狩り ゆいのもり舎と合同	喫茶用エプロン 三鷹の作業所むらび舎より届く Oさん(女性・青梅市)入所 暑気払いカラオケ大会 夏休み	ミーティング 防災訓練 ケーキバイキング 8人来店	消費生活展に参加 喫茶営業 福神漬、らっきょう漬の漬け込み パイ焼き釜、パイ焼き茶房(世田谷区)見学 バーベキュー大会(ゆいのもり社と合同)	福祉コンサートでケーキ、クッキー販売 ケーキバイキングで8人名来店 初夏旅行 千葉県安房もとな荘へ	新職員森啓暢さん、非常勤職員伊藤嘉子さん採用 Tさん(女性・昭島市)入所 非常勤職員鈴木史乃さん、島村真知子さん退職 昭和記念公園花見(ゆいのもり社と合同)



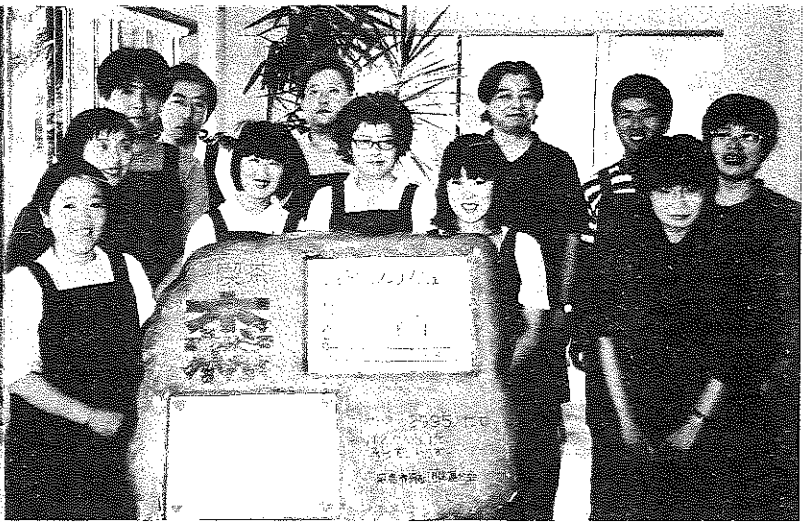
# 作業所で働く私

岩泉 好美

四年前の五月、新しいきれいな昭島市役所内に喫茶『森』がオープンしました。オープンの中から私は働かせていただいています。お皿洗いを一生懸命していた事を思い出します。一度に注文されると頭の中がパニックになった事も忘れられません。手づくりの心安らぐ食器類やお花、観葉植物、音楽に囲まれて四年が過ぎました。少しは私、進歩したかな？ メンバーといろいろトラブっちゃっていやな思いをした事、自分が悪かった事になかなか気づけなかった事、我慢しなければと悟った事もあります。薬を飲んでいるのに体調が悪く思う様に作業出来なかった事もあります。

先日終わったシドニーオリンピックに感動しました。メダルは素晴らしいものです。胸に輝かせたあの笑顔はいいなあと思いました。しかしメダルはもらえなくても、すごく活躍した人がいました。私はおしめない拍手を送りました。そして私は、自分はこれでいいのかなあと思いつきました。

この四年間を振り返ってみて出来る様になった事、レジが打てる様になった事、注文された飲み物を入れる事が出来るようになった事。でもまだまだの事も多い。看板を正しく置けない、ホットの紅茶はケーキの時はセットになるのか、金曜日はかごの中のガムシロやミルクポーションの入れ替えが良くわからない。まだあるけど。最初の時の方が良かった事。もっと前向きで朝も早く起きた。体調のせいかこの頃は前向きになれない。何故か？ なぜと思うことが多い。でも気持ちを入れかえ仕事出来る様になりたいと思う。そして早く一般のところで働ける様になれるといいなあと思うこのごろです。



## ザ・サードと喫茶森 この1年

99年10月

ミーティング タバコの吸い方について討議  
みんなのバザー ケーキ、クッキー販売  
日の出太陽の家陶芸教室参加  
喫茶で使う灰皿を作る

11月

立川駅ビルグランテュオで食事  
Sさん(女性・昭島市)入所  
ゆいのもり社と合同芋煮会 多摩川原にて  
名花美樹さん退職 非常勤職員鈴木史乃さん採用  
ソフトボール 滝川メンタルクリニック  
ホットスペースス八王子と対戦  
青少年フェスティバルでケーキ、クッキー販売

2000年1月

非常勤職員島村真知子さん採用  
ケーキバイキング153人来店、大盛況  
冬の一泊旅行 長野県横谷峡温泉へ  
忘年会 冬休み

2月

ザ・サード用ワゴン車購入  
Sさん(男性・昭島市)入所  
ボーリング大会 五日市勤労福祉会館にて

3月

もちつき大会  
喫茶コーナー全国交流会(国分寺市)に参加  
Hさん(男性・昭島市)、Mさん(女性・昭島市)、  
Kさん(男性・昭島市)入所  
いちご狩り 山梨県小曲町へ  
作業所一室を畳からフローリングに張り替え

## グループホーム「太陽と風」ってどんなところ！

グループホーム「太陽と風」は、精神障害者が地域でサポートを受けながら、暮らせる場所が欲しいというひとりの家族の願いから出発して、当時昭島にあった保健相談所が支援し、地域の精神の関係者が話し合いを重ね、1996年4月に開設されました。

設立当初は手探り状態のこともありましたが、それから4年半経過して、地域の中に自然な形で根を下ろし、活動は少しずつ安定期に入ってきました。最も、個性的な人間が主人公の場所なので、毎日毎日たくさんのエピソードがある所ですが、現在は6名のメンバーが、アパートの個室で生活しています。

生活費は年金や授産施設の収入、作業所工賃、あるいは生活保護を受けて、自分でやりくりしています。昼間は作業所や授産施設に通いますが、夕方帰った後は自炊をしたり、週3日ある夕食会を利用してメンバーや世話人と食事をします。交流室に集まってメンバー同士でおしゃべりをするのも自由、ひとりで居なければ自分の部屋で過ごすのも良いし、思い思いの過ごし方で生活をしています。休日は友達と出掛けたり、家族の所へ帰ったり、一週間の疲れを取るために寝て過ごすなど、これまた各人各様です。毎日の生活で起こるさまざまなこと、自分で判断できないことがあったり、胸の中がモヤモヤして何だか納まりがつかない時には、「世話人」が居ますので、不安や心配を取り除くサポート役を引き受けてもらいます。

こうしてグループホームでマイペースな生活をしながら自分なりの生活感覚を実感し、今度は地域のアパートで本当のひとり暮らしにチャレンジしていきます。実際ここを卒業して、もう既にアパート暮らしを始めている方が居ます。グループホームを退去したらそれで縁が切れるわけではなく、今度は必要な時に夕食会や行事に参加したり、相談が出来る、自分にとって「行くことの出来る場所」のひとつになっています。

障害のある人たちは、親や兄弟と離れて自立してひとり暮らしがしたい、病院を退院して地域に戻りたい等思っても、簡単に実現できるとは限りません。グループホームはそんな自立への思いを実践できる場として、はたまたごく普通に地域で暮らせる場として、大切な役割をになっています。

### グループホームでの生活 大橋進一

母といっしょに居た時は、洗ビンセンターから帰ってきてから朝センターに行くまでほとんどいっしょに居て、時々、あー一人になりたいと思った時が何どかあったが、太陽と風に入って一人になれたと思え、以前いっしょに居た母とか目が使っていたのが、いまは夜中とか目を覚まして、周りに気を使わないで電気をつけたりできて良かった。ここに来て、毎日が楽しくて、自分の時間とかがもてるようになったのと、ここに入って少し人生が変わったみたいで毎日に変化があって、すごい良かったと思っている。



どこにでもある2階建てのアパート。12部屋のうち6部屋がメンバーの住まい。

### 編集後記

一雨ごとに秋の深まりを感じさせるこの頃ですね。「ゆいのもり」の歴史など知らない事も多かったのではないかと思います。次から次へと押し寄せてくる仕事！仕事！仕事！。波に飲まれて笑顔をなくすことがないように気をつけなくちゃ、と思う今日この頃です。(くに)